

1月20日(水曜日)

ドル/円

90円手前では一旦底堅く

19日(火)の主な推移

NYダウ平均

10725.43ドル
(+115.78ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

3.7016%
(+0.0214%)

NY原油先物

79.02ドル
(+1.02ドル)

チャート: 30分足 19日(火)朝7時 ~ 20日(水)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

- ① 18日の取引でドル/円が91円付近で伸び悩んだことで朝方からドル売り・円買いが先行。JALが19日に会社更生法を申請する見通しとなったことで、JALが燃料購入に伴うデリバティブを清算する必要があり、1000億程度のドル売り・円買いが生じるとの観測を背景に、ドル/円は夕方にもほぼ1カ月ぶり安値90.30円を記録した。
- ② 英12月消費者物価指数が市場予想を上回り、英国中銀による早期利上げ観測が強まったことを受けてポンド/円が急騰するのに伴い、ドル/円も上昇した。
- ③ 19日の米マサチューセッツ州の上院補欠選挙で民主党が敗北すれば、オバマ政権の最重要課題である医療保険改革が行き詰るとの観測から医療保険やヘルスケア関連株が上昇。米ダウ平均株価が15カ月ぶり高値に上昇するのに伴い、外国為替市場でもリスクを積極的に取る動きが強まり、ドル/円は20日未明に91.25円まで上昇した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・日本の政局の混迷
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本政府による市場介入への警戒感
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 90.50-91.65円

本日のドル/円は、ユーロ/円や米国の経済指標や企業決算をにらみながらの展開となりそうだ。19日の取引ではほぼ1カ月ぶり安値90.30円まで値を下げたが、主に米国株価の上昇で円売りが強まったことを受け、90円ライン手前での底固さが一旦確認されたが、91.30円手前では伸び悩んでいる。

東京時間では本邦輸出企業による実需のドル売り・円買いが上値を抑える可能性があり、90.80-91.40円程度のレンジでの推移が予想される。ギリシャ財政への懸念で下落基調の推移が続いているユーロ/円の動向や、日本時間20日中に判明する米マサチューセッツ上院補選の結果がカギとなりそうだ。

本日及び明朝の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/20(水)	21:00	○	(米)バンク・オブ・アメリカ第4四半期決算	—	—
	22:00	○	(米)モルガン・スタンレー第4四半期決算	—	—
	22:30	○	(米)12月生産者物価指数[前月比]	+1.8%	±0.0%
	22:30	○	(米)12月生産者物価指数[コア:前月比]	+0.5%	+0.1%
	22:30	◎	(米)12月住宅着工件数[年率換算]	57.4万件	57.2万件
	22:30	○	(米)12月建設許可件数[年率換算]	58.9万件	58.0万件

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com